

2010年5月10日
東レ株式会社

欧州EADS社とエアバス社向けを中心とする 炭素繊維プリプレグに関する長期供給基本契約を締結

東レ株式会社(本社:東京都中央区、社長:榊原 定征、以下「東レ」)はこのたび、欧州の大手航空宇宙防衛企業であるEADS社(本社所在地:オランダ)と、エアバス社向けを中心とする航空機用炭素繊維プリプレグの供給について、2025年までの15年にわたる長期供給基本契約を締結しました。

EADS社は、欧州の航空宇宙関連企業グループで、傘下の中核企業には世界を代表する航空機メーカーであるエアバス社、ヘリコプター製造を手掛けるユーロコプター社、宇宙関連製品を提供するアストリウム社などがあります。従来当社は、EADS社へプリプレグ加工メーカーを通じて間接的に高品質・高機能炭素繊維を供給してきましたが、今回の契約締結により、当社高機能炭素繊維プリプレグを含めた幅広い製品を直接供給していく枠組みができました。

航空機用途の炭素繊維需要は2008年から低迷していましたが、主要航空機メーカーが生産機数を上方修正するなど回復・拡大に向かいつつあります。エアバス社は炭素繊維複合材料をA320ファミリー、A330/A340ファミリー、A380ファミリーなどの一次・二次構造材に採用しており、次世代中型ジェット旅客機A350 XWBにおいても、主翼や胴体に炭素繊維複合材料が使用される予定です。この新型機の生産開始によりエアバス社の炭素繊維需要が飛躍的に拡大していくものと期待されます。

エアバス社では現在、当社中弾性率炭素繊維使いのプリプレグを認定中であり、今回の契約締結を機にこれを実商売に結びつけ、エアバス社の既存機種ならびに今後の新型機種についても当社プリプレグの採用を積極的に働きかけていく考えです。

当社は、航空機用途を高機能炭素繊維の中核用途と位置づけており、航空機用途向け炭素繊維では60%以上のマーケットシェアを有しています。今回のEADS社、特にエアバス社との関係強化により、高品質・高機能材料の航空機用途への供給拡大が実現し、同用途におけるリーディング・カンパニーとしての地位がより強固になるものと期待しています。

東レは、昨年4月にスタートした中期経営課題“プロジェクトIT-Ⅱ”の中で、「環境」「資源・エネルギー」「少子高齢化」などの課題にソリューションを提供するという切り口から成長戦略を推進しています。その中核的な事業である炭素繊維複合材料事業については、世界のリーディング・カンパニーとして、有力パートナーとのアライアンスを積極的に活用しながら、これからも更なる強化と拡大に取り組んでまいります。

以上